

12 黒谷・岡ノ上遺跡

調査地 加東郡東条町黒谷字岡ノ上ほか
調査期間 2002年 2月18日から
3月 7日まで
原因 公共下水道埋設事業
原因者 兵庫県加東郡東条町
調査面積 約225m²
調査担当 森下大輔

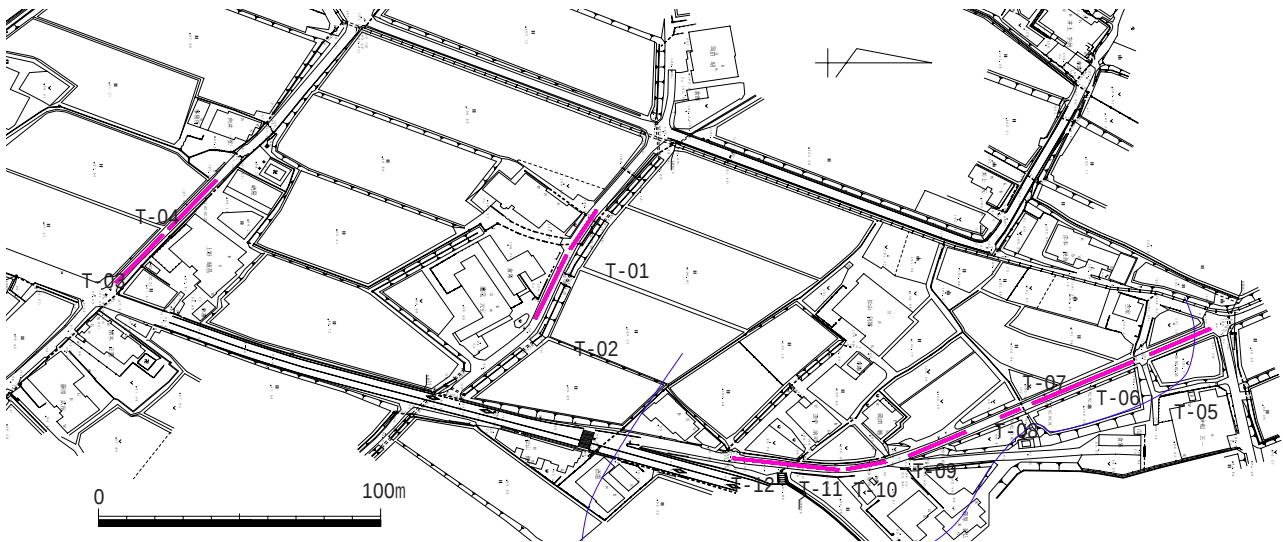


調査位置図

東条 1/25000

東条町黒谷地区は、東条川西岸の低位段丘面に立地し、室町時代に再建された重要文化財である若宮八幡宮本殿前に位置している。また、山麓には横穴式石室をもつ古墳が1基ではあるが残存し、圃場整備事業に伴い須恵器・土師器といった遺物が採集されている地域でもある。

調査はアスファルトにカッターで切り込みをいれ、下水道管を埋設する部分を設定したのち、横断管や人坑部分を避けて実施した。



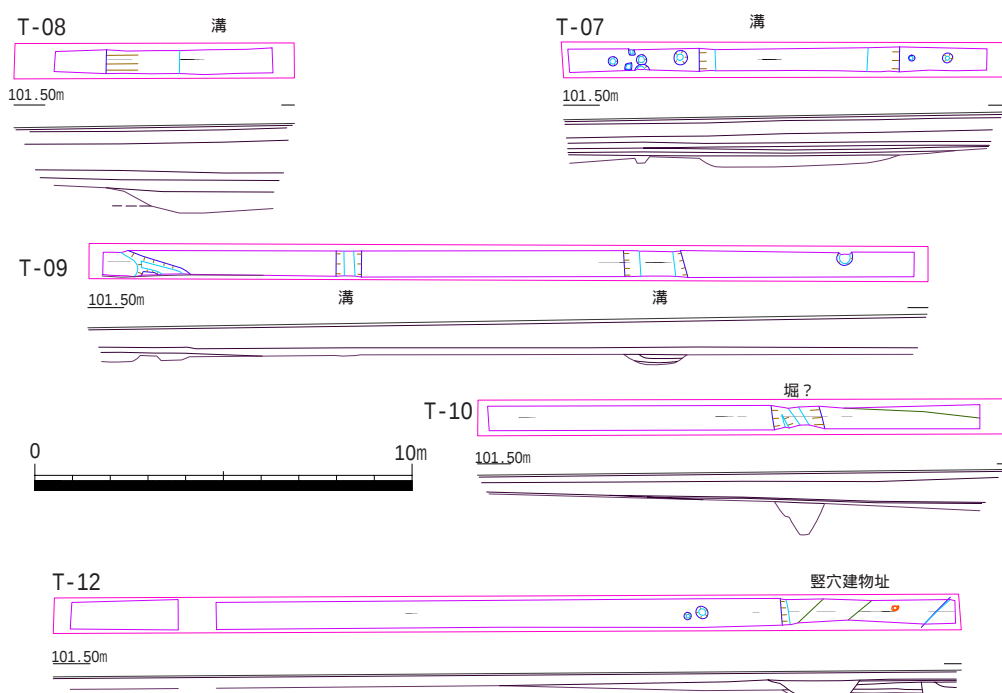
トレンチ設定図

遺構はT-3を除けば最も北東部に設定したT-5～-12において集中して確認されている。

T-3では室町時代の溝が1条遺存しており、若宮八幡宮を維持した人々が、すぐ周辺に生活していた可能性を示している。

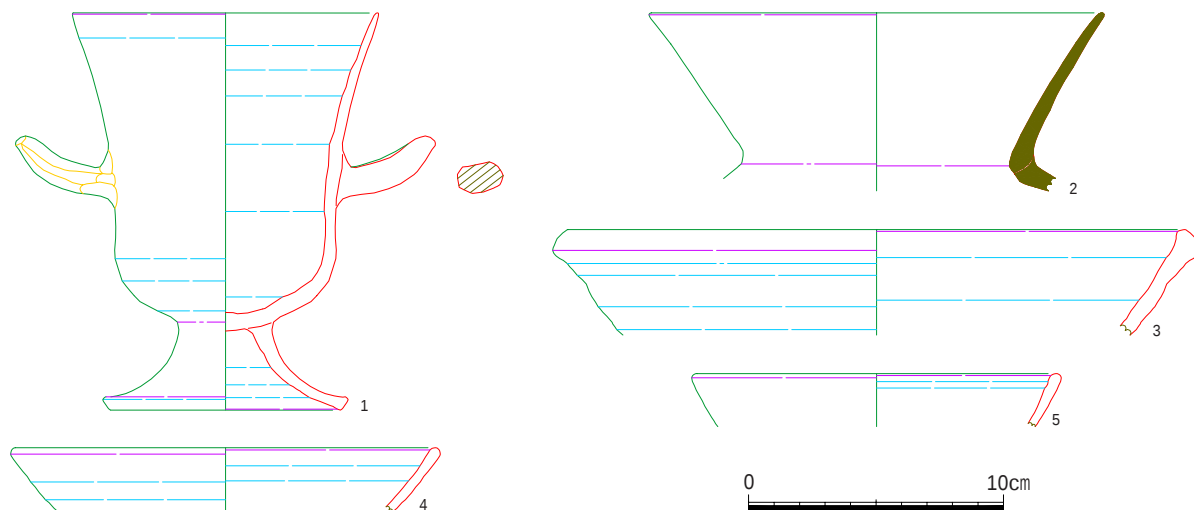
T-5では不整形な土坑、T-6ではピット・土坑、T-7ではピット・溝など室町時代に属する遺構で、西に向かうほど遺構密度は強い。また、地山面はT-5～T-7では緩やかに傾斜している。T-8で最深部をむかえ、道路下2.26mで溝の底部に達する。その後、T-9から西方向に地山面は高くなり、T-12では現道路敷設による削平が著しくなる。ただ、室町時代の遺構は、溝で、西に向かうほど遺構密度は強い。T-9では溝や土坑が、T-10では溝が、T-11でも溝・土坑・ピットなどが検出されており、遺跡がこの段丘面一帯に広がる可能性が強いことを示している。T-9で検出された溝とした遺構は、最下層にはアカマツの枝などを含んだ有機質シルトが堆積しており、土坑の可能性もある。T-10で見られた溝は、幅1.3m、深さ80cmを計るV字状を呈したもので、城館などに見られるいわゆる薬研堀の形状を呈しており、今後そうした遺構が検出される可能性を提

供する資料としてその意味は大きい。T-12 ではこの遺跡の初源となる古墳時代後期の竪穴建物址が検出されている。この建物址は1辺が5 m強と考えられるもので貼床が施されているが、支柱穴は検出されていない。炭化材が散乱していたところから焼失しており、須恵器の台付取手付埴・土師器の甕が出土している。



遺構図

遺物の出土量はきわめて少量であり、6点を図化し5点を提示している。1・2はT-12 SH-01から出土したもので、1は台付取手付埴で郡内では初見の資料である。外面全体にカキ目調整された後、取手が貼り付けられている。2は頸部から口縁部にかけて真直ぐ延びる土師器の甕で、6世紀後半の所産と考えている。3は須恵器の捏鉢、4・5は椀で概ね13・14世紀台のものであろう。



遺物実測図

圃場整備事業に際して当地域での調査は実施していないが、今回の調査によってこの地域に古墳時代後期を初源とした遺跡の存在が明らかとなり、鎌倉以降には段丘域一帯に広がりを見せるものと思われる。



T-01



T-03



T-04



T-06



T-09



T-09 SD-01



T-10



T-10 SD-01



T-11



T-12



T-12 竪穴建物址



竪穴建物址断面



甕出土状況